

Call for Papers 投稿募集



Health Emergency and Disaster Nursing

Editor-in-Chief
Barbra Mann Wall, PhD, RN, FAAN
University of Virginia School of Nursing

災害看護国際学術誌HEDNの使命

災害看護エビデンスの構築

国際的に活躍する災害看護研究者らを編集者に迎え、全世界より優れた災害看護に関する研究論文を募り紹介する

災害看護に関する最新の研究情報の提供

迅速な査読体制をとり採用決定後は英文編集を経てJ-Stageで公開する

研究者の育成

日本人研究者の育成を図り、国際的ネットワークを構築する

- HEDNはDOAJの認定を受けたオープンアクセスジャーナルです
- 掲載料Article Processing Charge (APC) が必要です
- 著作権は著者が保持し、配布、複写、転載など自由に使えます

詳細は下記にお問い合わせください

hedn-editorial@primeassociates.jp

<https://hedn.jp/ja/>

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/hedn/-char/ja>

投稿 <https://mc.manuscriptcentral.com/hedn>

Author Guidelines <http://hedn.jp/ja/journal-menu/for-contributers/author-guidelines.html>

日本災害看護学会はHEDNへの投稿を推奨しています



Health Emergency of Disaster Nursing (HEDN)

出版継続のためにご協力をお願いします。

募金のお願い

災害看護グローバルリーダー養成プログラムの公式ジャーナル Health Emergency and Disaster Nursing (HEDN) は2014年に文部科学省からの助成を受けて創刊し、世界初の災害看護研究に特化したオープンアクセスジャーナルとして、今日まで全世界に無料で配信してきました。昨今、日本だけでなく世界規模で災害が頻発し、激甚化、大規模化、多様化するなかで、HEDNの出版を継続していくことは、“人間の安全保障”を考えるうえでも重要な責務であると考えています。

HEDNは地震、津波、台風、ハリケーン、洪水などの自然災害だけではなく、インフルエンザ、はしか、ジカウイルスなどのパンデミックと呼ばれる世界的に猛威を振るう感染症やワクチンも研究の対象としています。また、交通事故、労働災害、原油流出・海洋汚染、核爆発・放射線被害、殺戮、テロなどの人為災害も含んでおり、その対象は広範囲にわたっています。

これまでの10年間の土台の上に、今後、ますますジャーナルを発展させ、誰もが災害看護研究から恩恵を受けられるように研究成果を世界に向けて発表、配信できるよう、皆様方のご支援を是非お願いします。

これまでに発表したHEDNの論文はJ-Stage（国立研究開発法人科学技術振興機構が構築した日本の科学技術情報の電子ジャーナル出版を推進するプラットフォーム）から閲覧できます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/hedn>

HEDNの出版事業の継続を応援いただくには、下記の口座へ寄付をお願いします。

りそな銀行 本郷支店 (普) 1886695 口座名義：NPO法人災害看護推進会

NPO法人災害看護推進会 問合せ先: info@npo-dng.jp * 税額控除が受けられます

著者の国別内訳

これまでに数多くの国から投稿が寄せられており、HEDNは災害看護の情報を共有できる国際的な場となっています。

オーストラリア、インドネシア、イラン、日本、韓国、リベリア、トルコ、タイ、トルコ、イギリス、アメリカなど。

HEDNジャーナル表紙の「奇跡の一本松」

2011年3月11日、岩手県陸前高田市の日本百景のひとつである景勝地、高田松原の70,000本もの松林が津波によりなぎ倒され壊滅した。その中を耐え抜き生き残った樹齢250年以上とも言われる一本の古木が立っているさまは、復興への希望のシンボルとされた。HEDNは看護科学の英知を結集させ、災害の予防、そして復興に寄与していきたいと考えている。

